

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (No.5)

2005.12.15

もくじ

1. 10 月度 (第 2 回) ボランティア活動の報告：
"緑の教室" のサポート・アブラギリの採種とオニグルミの移植
2. 11 月度 (第 1 回) ボランティア活動の報告：
千葉演習林秋の研修会およびスギ林の成長調査
3. 1 月度 (第 1 回) ボランティア活動の案内：
シカ他大形哺乳類の生息数調査
4. 1 月度 (第 2 回) ボランティア活動の案内：
枝打ち・成長測定

10 月度 (第 2 回) ボランティア活動報告 ～ "緑の教室" のサポート・アブラギリの採種とオニグルミの移植 ～

ボランティア 岩崎 寿一
石川 輝雄

平成 17 年 10 月 21 日 (金) に 2005 年度公開講座「緑の教室」が開催されました。この行事は、総合学習「自然は私のパートナー：森林の秘密を探ろう」・PTA による「ふれあいポケット」の共催行事で、地元の天津小学校の生徒と保護者の方を対象に毎年おこなわれています。ボランティア会としては初



開会式の様子

めてのサポート参加で、石川と岩崎の2名が参加しました。

当日の受講者は地元天津小学校5年生とその保護者そして引率の先生の計96名の方々です。

この日は朝から良い天気、予定通り清澄作業所前で行われた開会式が8時40分から行われました。開会式での小学生の挨拶は元気一杯で又清々しく、私はその昔を懐かしく思い出しました。

この日の活動プログラムは 清澄宿舎前 郷台林道 荒檜 今澄 東漢森 清澄宿舎前を歩いている自然観察(ビンゴ)、清澄寺の千年杉の高さと幹周りの測定体験、毘沙門での「天津小学校の森」のコナラの種まき、枝打ちと間伐や木登り体験、丸太切り体験と盛りだくさんで、4班に別れ、演習林の職員の皆さん19名が各々役割を分担しコースの案内、説明、誘導など一人何役もこなすと云うなかなか大変なスケジュールになっておりました。

それぞれの項目には、自然環境や森林の働きについて小学生に興味を持ってもらえるように工夫がなされておりました。

そのような中で、石川は「自然観察(ビンゴ)」と「千年杉の測定」、岩崎は「枝打ちと間伐や木登り」班と一緒に行動させて頂きました。

枝打ちや間伐の意味を解かり易く小学生に説明するのはなかなか難しい事だと思いましたが、職員の方々は上手に説明しておられました。

チェーンソーを使った間伐作業の実演はサンプスギ植林地で行いましたが、杉が細かったり、枝掛かりの心配等で倒木のときの迫力に欠けるものの、チェーンソーの音はなかなかのものでした。

親子でコナラのタネを蒔きつけてもらった後にブリ縄を使った木登りの実習も行いました。落下防止の為、皆さんには安全帯をつけてもらって木登りに挑戦です。男子も女子も全員が成功しました。登った時の「やったぞ」という得意満面のVサインには、応援していた保護者の方々も嬉しそうでした。職員の模範ブリ縄木登り実演が有りましたが、その技術には拍手喝采でした。

自然観察ビンゴでは、今澄の大きな杉の説明を受けたり、鳥の巣箱のなかのゲジ(マダラカマドウマの方言?)を見つけて、大騒ぎをして自然の生き物の観察を楽しんでいました。

清澄寺の千年杉の測定は、親子手をつないで、幹の周りを測ったり、木の高さは簡単な三角定規や・光学式のブルーメライズ・最新鋭の赤外線や超音波を使ったデジタル式のパーテックスなどの機械などをのぞきました。

昼休みには、自由参加でノコギリでの丸太切りを行いました。ノコギリを初めて使うような子供がほとんどで、最初は危なっかしく、心配して見てお



千年杉の測定

りました。しかし、最後には、皆けっこう上手に切るようになり、なかなか大したものだと感心しました。

定時の 15 時 30 分にはすべての予定が無事終了し、小学生の閉会の元気なあいさつで締めくくりました。彼らの蒔き付けたコナラの実が、無事発芽して、大きく育つと良いな、と思いました。楽しい 1 日でした。

10 月 22 日の活動は「アブラギリのタネ集めとオニグルミの苗木の移植」です。

朝 9 時 40 分の定例の時間に清澄作業所に集合。相川・恵・西山・青木さんと岩崎の 5 名が参加しました。職員の村川・大塚・根上さんの指導で作業に取り掛かりました。



アブラギリの種子集め

昨日とは打って変わり、朝から雨が降っておりました。全員雨合羽を着用、2 台の車に乗り込んで、鴨川市内を経由して県林道 小倉 - 松森線に向かいました。いつもの演習林の郷台林道が使えないのは先日の台風の影響で通行不能になっている為です。

雨は強くなったり弱くなったりしていましたが、林道に入って曲がりくねった道を進んでいくと、うっそうとした杉林の道路脇に色づいて落葉を

始めているアブラギリが目に入って来ました。適当な木の下に車を止めて、道路におちている実を拾い集めました。雨も小降りになり、実もたくさん落ちていたので、食べられたら良いのと言いながら、(この実から取れる油は有毒)約 1 時間でたくさん拾うことが出来ました。皆のものを 1 箇所に集めたら、結構な量になっており、今年の方はこれで十分との事でした。

アブラギリはアカメガシワやヌルデなどとともに荒地に最初に生える樹木で、この実を乾燥させてからタネをとり、来年蒔くとの事。演習林内の土砂崩壊地や、崩壊の危険がある所にタネを蒔いて根を張らせる対策には良い樹木です。成長が早く、しかもシカが食べない為、有効なのだそうです。

次はオニグルミの苗木の移植です。郷台林道沿いの亀ノ沢での作業です。カシの木を薪炭として切り出したあとの裸になった場所です。運良く雨が上がり、作業にはうってつけとなりました。演習林で採取した種から育てた苗木 30 本を植え込む作業です。

又、植え付けた苗木は鹿の食害対策としてラクトロンネット(トウモロコシを原料としたネットで放置しても数年で自然分解して土に戻る)で保護して完了です。

苗木とネットの材料とスコップを持って、急斜面を登ったり下りたり、穴を掘ったり、結構きついと感じたのですが、思ったより早く作業が終わってしまい、拍子抜けでした。

休眠させるために葉を全部落としておくとか、穴に根を入れて土をかぶせてから少し苗を引き抜いて再び土をしっかりと押える、等植付けのコツを教えてくださいました。



オニグルミを植えて仕上げのラクトロンネットかけ

植付け作業は初めての体験でしたので結構楽しい時間でした。

作業が完了した時、立派なキノコを見つけました。ウラベニホテイシメジという食べられるキノコのようなのですが、恵さんが家に持ち帰って調べてみると、茎が充実しておらず中空で、毒キノコのクサウラベニタケであることが分かり、もちろん食べませんでした。

キノコが食べられるかどうかの判断は大変にむずかしく、スギヒラタケのように従来、食べられていたものが最近になって死亡例がでたりすることもあるので、安易に食べることはやめるべきですね。

早くクルミの林が出来て、クルミもたくさん実るとよいですね。小動物も増えるかもしれません。夢が膨らんで、楽しみです。

11月度（第1回）ボランティア活動報告

～ 秋の研修会およびスギ林の成長調査～

ボランティア 藤田 貴樹

平成 17 年 11 月 7 日（月）より 8 日（火）の 2 日間にわたって 11 月度（第 1 回）のボランティア活動が行われました。7 日は秋の研修会で 日本林学会関東支部大会、他の演習林での研修報告など各職員の報告を聴講し、8 日はスギ人工林の成長測定です。

今回の参加者は秋の研修会については石川・西山・恵・酒巻さんと藤田の 5 名が参加し、成長測定は石川・西山・恵・相川さんと藤田の 5 名が参加しました。

秋の研修会は 7 日の午前 10 時 30 分より午後 5 時まで、清澄作業所内の講義室にて開かれ、午前中は日本森林学会関東大会において発表された研究 3 題目、千葉演習林における天然ヒノキの考察（鈴木（誠）先生）、ヤマビル生態と天敵（山中（征）先生）、ヒメコマツの種子発芽の環境（池田先生）の報告がありました。



OHP による発表風景

昼食後、恒例の清澄作業場内の“山の神様”の参拝をはさみ、午後は各技術職員による各区における研修報告、軽込さん報告の千葉演習林に於ける植物分野基盤データ整備の現状と問題点、山本林長先生の中国・上海における研修報告の各発表を聴きました。

研修会のあと、清澄作業所の宿舎食堂で懇親会が開かれ、演習林の職員の方々と、時間の許す限りおおいにお酒を飲み交わし、語りあって、親交を一層深めました。

翌日の11月8日は職員の唐鎌・大塚さんとスギ人工林の成長測定です。今回の調査箇所は今澄の北側にある仁ノ沢39林班で、清澄作業所に比較的近いところですが、われわれはもちろん、職員の方々も最近入山してないとのこと、どのような所か楽しみでした。仁ノ沢39林班はC₂₋₃小班とC₂₋₄小班の2箇所にわかれている33から35年生のスギ人工林です。(実際はC₂₋₃小班の入口側に少しヒノキがありました。)



輪尺を使って胸高直径の測定

相川さんは記録係を担当しました。ちなみに唐鎌さんは長年の経験で目測で樹高を誤差なくあてられるそうです。

スギの本数は、午前中測定したC₂₋₃小班は120本くらい、午後測定したC₂₋₄小班はその約半分の60本くらいでした。スギ人工林なので樹下の草本はほとんどないのですが、目も鮮やかな赤い色をしたベニチャワンダケモドキが枯れ木に生えていたり、黄色でそうめんのようなナギナタダケなどの珍しい形のキノコが生えていました。午後は測定になれた事とスギの数の密度が低いせいもあり、比較的短時間で測定が終了しました。



ナギナタダケ

行きは今澄の近くまで車に乗り仁ノ沢歩道を歩いたのですが、帰りは自然観察をかねて清澄作業所まで大仙場林道を歩くことにしました。大仙場林道は昔は木の伐りだしに車が入れるように整備されていたようですが、現在は橋のあった所も橋脚の跡がわずかに残る程度、道もと

ころどころ大幅に崩れていて、車はもちろん、歩くのも大変な状況になっていました。

しかし、途中ヤマトリカブトの花やシナノキ、ミヤマホオソ、チドリノキなど珍しい木を多く見ることができ、唐鎌さんや大塚さんの話ですとツクバネの群落やスハマソウもあったとのこと、違う季節にまた歩いて見つけたいと思いました。

最後に素掘りの長く暗いトンネルをぬけると市原天津小湊線の広い道路にひょっこり出て、清澄作業所もすぐです。

今回は天候にもめぐまれ、快適に活動することができました。涼しくなってきたので、ヤマビルはあまり出て来ず、活動自体もだいぶ鈍っておりました。

*見つけた植物の紹介

ヤマトリカブト：きんぼうげ科トリカブト属の多年草、山地に生える鳥兜の意味、花の形が舞楽に使う伶人の冠に似ているから、紫の花、有名な毒草。

シナノキ：しなのき科シナノキ属の落葉高木、シナとはアイヌ語で結ぶ、縛るという意味。用材、樹皮の皮が丈夫で利用する。花（実）に舌のような葉がつく。

ミヤマホオソ：あわぶき科アワブキ属の3mほどの高さの落葉低木、深山ハハソのことで葉がハハソ（コナラ）に似ているため。

チドリノキ：かえで科カエデ属、渓谷沿いにはえる落葉小高木、翼のある果実を千鳥の姿に見立てたもの。葉はモミジの仲間なのに分裂葉でなく不分裂葉（普通の葉の形）

ツクバネ：びゃくだん科ツクバネ属、モミ・スギなどに寄生する半寄生の1.0~1.5mの落葉低木。果実が羽子板の羽根に似る。（別名ハゴノキ、コギノコ）

スハマソウ：きんぼうげ科ユキワリソウ属、ユキワリソウともいわれる山地の林下にはえる多年草。スハマは州浜で葉の形から、同じユキワリソウといわれるミスミソウは千葉県では見つかっていない。



ヤマトリカブトの花



ミヤマホオソの葉と実

1 月度（第 1 回）ボランティア活動案内

～ シカ他大形哺乳類の生息数調査 ～

千葉演習林内のそれぞれ割り当てられた区画の中を 1～2 人ずつ一定時間歩き、シカを始めとした動物を目撃した頭数から、動物の生息密度を調査します。調査結果は千葉演習林で行なわれている各種試験研究、森林管理、有害鳥獣駆除等の計画立案に役立てられます。

日 時 平成 18 年 **1 月 12** 日（木）～ **13** 日（金）（宿泊）

集 合 清澄作業所 12 日 8:30

解 散 同 13 日 14:00 頃

内 容 12 日 [札郷] [清澄] 地区のシカ他の大形哺乳類の生息数調査
13 日 [郷台] 地区のシカ他の大形哺乳類の生息数調査

人 数 3 名 原則として先着順、初参加優先（山歩きに慣れ、地形図の読める方）

持ち物 時計、携帯電話（持っている人）、筆記用具、雨具、12 日昼の弁当（前泊者は不要）、飲み物、防寒衣、懐中電灯（予備電池）、会員証、リュック、登山靴などしっかりした靴、敷物、保険証、常備薬、宿泊用の持ち物など

宿泊場所 清澄学生宿舎（04-7094-1990）

雨 天 時 小雨決行 悪天候の天気予報で中止する場合、前日参加者に連絡します。

- そ の 他
- ・ かなりハードですので、健康に注意し、体調を整えて参加ください。
 - ・ **前泊も可能です。** その旨申込時に申し添えてください。
 - ・ 野外調査での万一の事故に備え、**申込時に緊急連絡先（氏名、確実に連絡のとれる電話番号）を教えてください。**
 - ・ 災害保険用として参加者の氏名、生年月日、職業を演習林事務局に連絡することをご了承ください。
 - ・ 参加者には詳細なスケジュールを送ります。
 - ・ 参加には会員登録が必要です。

受付期間 平成 17 年 12 月 17 日（土）～12 月 20 日（火）（期間が短いので注意！）

申込方法 電話、FAX、E-mail のいずれか、事務局 石川輝雄

1 月度 (第 2 回) ボランティア活動案内

～ 枝打ち・成長測定 ～

| | |
|-------------|---|
| <u>日 時</u> | 平成 18 年 1 月 19 日 (木) ~ 20 日 (金) (宿泊) |
| <u>集 合</u> | 清澄作業所 19 日 9:40 |
| <u>解 散</u> | 同 20 日 16:00 頃 |
| <u>内 容</u> | 枝打ち (手の届く範囲の枝をノコギリで切ります) 成長測定 (苗の高さや直径などを測定します) * 内容が変更する場合があります。 |
| <u>人 数</u> | 9 名 原則として先着順 |
| <u>宿泊場所</u> | 清澄学生宿舎 (04-7094-1990) |
| <u>参加費</u> | 2,240 円 |
| <u>持ち物</u> | 昼食、飲み物、筆記用具、会員証、滑り止め付き軍手、雨具、リュック、 敷物、保険証、常備薬、防寒具、宿泊用の持ち物など |
| <u>雨天時</u> | 総会や来年度の打ち合わせなど |
| <u>受付期間</u> | 平成 17 年 12 月 25 日 (日) ~ 平成 18 年 1 月 10 日 (火) |
| <u>その他</u> | ・ 1 日のみの参加も可能です。その旨、申込時に添えてください。 ・ 参加には会員登録が必要です。 |
| <u>申込方法</u> | 電話、FAX、E-mail のいずれか 事務局 石川輝雄宛 |

=====

千葉演習林ボランティア会 Abies通信 No.5 2005/12/15 発行

* 事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102 石川輝雄

* 東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770 TEL:04-7094-0621

FAX:04-7094-2321 E-Mail:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp